一　輪　車　の　練　習　　【中学年 2－ 3】

―　学校行事との関連を図った取組み　―

(1)　主題名　友だち同士助け合って〔２－３〕　関連項目〔１－３〕

(2)　ねらい　友だち同士互いに理解し，信頼し，助け合おうとする心情を育てる。

(3)　資料名　「一輪車の練習」

(4)　授業の展開例

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　友だちのよさについて考える。	○友だちっていいなと思えるのはどんなときですか。	○友だちについて考えることで，価値への方向付けとする。
展開	2　資料を読み，話し合う。	○グループで練習することになったとき，ゆりはどんなことを思ったでしょう。 ・わたしのせいで失敗したらどうしよう。 ・みんなにめいわくをかけたくない。	○これまでの生活経験等を思い起こしながら主人公の心情に共感させる。
		○みんなに手伝ってもらって練習しながら，ゆりはどんなことを考えていたのでしょう。 ・みんなが協力してくれてうれしい。 ・みんなが助けてくれるんだからがんばろう。	○書く活動を取り入れることで，主人公の気持ちをじっくりと考えられるようにする。
	3　演技を終えた後の主人公の気持ちを考える。	◎一輪車の演技が終わったときの，ゆりの気持ちを考えてみましょう。 ・ありがとう，みんなのおかげだよ。 ・みんながいてくれてよかったよ。	○友だちの支えで，一輪車に乗れた主人公の喜びを感じ取らせ，価値に迫る。
	4　自分の生活を振り返る。	○友だち同士が助け合ったときの様子と，そのときの気持ちを教えてください。	○自分の生活を振り返ることで，そのときの充実感や喜びに改めて気付けるようにする。
終末	5　教師の説話を聞く。	・お互いに協力することが大切なんだ。	○今後の活動の意欲を高めることのできる話をする。

一輪車の練習

わたしは、三年生になってから気にかかっていることがありました。それは、運動会で一輪車の演技があることです。わたしは一輪車にまだ乗れないのです。みんなは、上手に乗れるのに、わたしは、少しこぐところんでしまいます。

「もうすぐ、運動会の練習を始めます。」

ある日、先生がおっしゃいました。

「今年の運動会では、グループでそれぞれ一輪車のわざを考えてやってもらおうと思っています。休憩時間などにさそい合って練習してください。」

それを聞いて、わたしはどうしようと思いました。わたしたちのグループは、初めて同じクラスになった谷本君と原田さん、前から同じクラスだった大田さんとわたしの四人です。原田さんと大田さんはとても一輪車が上手です。谷本君は運動がすきで、一輪車も上手だけど、大きな声を出すことがあって少しこわいです。練習のことを考えると、どんどん暗い気持ちになっていきました。

運動会の練習が始まりました。

「それ。」

「がんばって、しっかりこいで。」

「その調子、ここまで。」

ガタン。

「わあ、またこけちゃった。もう、いやだ。」

やっぱりなかなか進みません。わたしは練習からにげ出したいような気持ちになってきました。

「のぼり棒のところで練習したらいいよ。」

そんなわたしに、大田さんが練習のやり方とコツを教えてくれました。

「ゆりちゃんはだれかが手を持っていたら乗れるんだから、手をつないで、できるわざにしましょうよ。」

原田さんも考えてくれました。

「ぼくが一番力がありそうだから、手を持っていてあげるよ。だから、ぼくのところまでは、一人で乗れるようになってね。」

谷本君がやさしく言ってくれました。

毎日、四人で練習しました。一人だとすぐころぶのに、横でみんなが手をつないでくれたらころばずに乗ることができます。

運動会の日になりました。いよいよ入場です。

（谷本君の所まで言ったら後は何とかしてくれる。）と思いながら、いっしょうけんめいこぎました。

「ゆりちゃん、がんばれ。」

大田さんの声がします。

何とか谷本君の手を持つことができました。すぐに反対の手を原田さんが持ってくれました。四人が手をつないで運動場を一周（いっしゅう）します。お母さんとおばあちゃんがうれしそうに手をふっているのが見えます。最後（さいご）のわざが終わり、先生が笛をふきました。

「やったあ、とうとうできた。」

横を見ると谷本君がほほえんでくれました。

活用に生かすための実践報告

◎　「一輪車の練習」

1　主題の設定

・よりよい友だち関係を築くためには，お互いを認め合い，助け合い，理解しながら,信頼感を育てることが大切である。励まし合い，助け合っていくことのできる友だちがいるからこそ，がんばっていける。そのような心情を育てていきたいと考えてこの資料を開発した。

・学校行事や学級活動等で，児童が協力して活動できたという充実感を味わった後や，次の活動に入る前に，本資料を扱った授業を実施すると効果的だと考える。

2　指導過程の工夫

・導入については,「心のノート」の活用（Ｐ 42. 43）も考えられる。

・終末について，指導案では教師の説話としているが，これまで学級で協力して取り組んだ活動の写真やビデオが活用できれば，よりねらいの達成に効果的だと考える。

・書く活動を取り入れて，主人公の心情に共感させる展開であるが，役割演技等を用いても効果があると考える。

3　発問の工夫

・主人公の心情にそって，発問を構成した。中心発問では，運動会での演技が終わった後の主人公の心情について，しっかりと共感させて考えることができるよう話合いのし方を工夫してほしい。

・また，展開の後段での一般化については，学級の児童の実態をよく把握し，これまでの体験が引き出せるよう発問を工夫してほしい。

4　児童の反応（授業後の感想）

【運動会が終わった時の主人公】

・「自分だけでは，最後までがんばれなかったような気がした。みんな，ありがとう。」

・「あんなに苦手だったのに，乗れるようになったのは，みんなが協力してくれたから。」

・「信じ合い助け合って生活していくことが大切なんだな。」

・児童は，これまでの学校行事や学級活動での経験を想起しながら，考えることができた。

5　実践者からの一言

・本資料は，運動会での一輪車の演技に向けての取組みを題材とした児童作文をもとに作成したものである。

・市内音楽会での発表の前に，学級全体で協力してがんばろうとする意欲を高めるために，この授業を実施した。運動会へ向けての取組みの中での自分たちの姿を思い起こすことで，さらに実践への意欲を高めることができたと考える。

（警固屋小学校　胡　敏和）